

「最近のがん治療 ～あなたらしい生活のために～」

日時

平成23年1月15日(土) 14:00～17:00
(開場13:00)

場所

神戸国際会議場メインホール 神戸市中央区港島中町6-9-1

総合司会

神戸大学医学部附属病院腫瘍・血液内科診療科長・教授 南 博信

講演

1. 「内視鏡外科手術～小さな傷でのがん手術～」

神戸大学医学部附属病院食道胃腸外科診療科長・准教授 黒田 大介

2. 「外来で受ける化学療法～より安全に快適に～」

神戸大学医学部附属病院外来化学療法室長・腫瘍センター特命准教授 向原 徹

3. 「情報の集め方～がんとうまくつきあっていくために～」

神戸大学医学部附属病院がん看護専門看護師・看護師長 藤原 由佳

パネルディスカッション

「がん治療Q&A」 司会 南 博信

パネリスト 黒田 大介、藤原 由佳、向原 徹、

和田 敦(神戸大学医学部附属病院がん専門薬剤師・主任)

【お申し込み方法】

はがきに参加希望人数、代表者氏名、郵便番号、住所、年齢、性別、電話番号、講師への質問を明記し、

平成23年1月6日(木)必着で、

〒650-8571 (住所不要) 神戸新聞営業局業務推進部へご郵送ください。

ファックス(078-361-7802)でも受け付けをいたします。

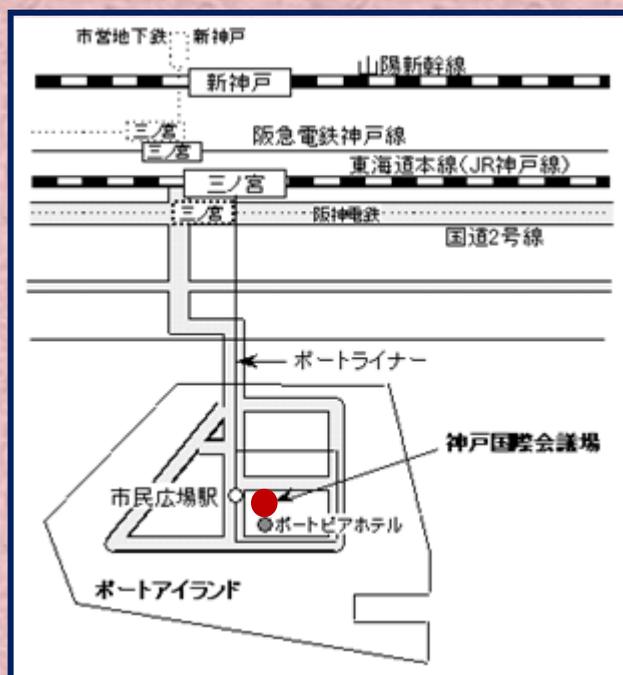
追って聴講券を発送いたします(応募多数の場合は抽選)。

■定員:500名(参加無料)

【お問い合わせ】

神戸新聞社 営業局業務推進部 「最近のがん治療」係

Tel.078-362-7077



<主催>神戸大学医学部附属病院(地域がん診療連携拠点病院機能強化事業)

<共催>神戸新聞社

<後援>日本臨床腫瘍学会、兵庫県がん診療連携協議会、兵庫県医師会、神戸市医師会

「最近のがん治療～あなたらしい生活のために～」

日本の国民病とも言われるがんは早期に発見することで治るようになり、決して怖い病気でなくなりつつあります。しかも技術の進歩により小さな傷口で体に与える負担が小さい内視鏡手術で治せる場合もあります。また、分子標的薬などの抗がん薬を上手に使用することにより、再発を減らせるようになりました。治らない状況でみつかったがんに対しても新しい抗がん薬が次々と登場しています。しかも副作用の少ない抗がん薬や良い吐き気止めが使えるようになり、慣れた医師が治療することで入院せずに外来で治療できるようになりました。つまり、それまでの生活を大きく変えることなくがん治療を受けられます。あなたらしい生活をしながらがん治療を受けていただくために、最新のがん医療を紹介しがんと上手につきあっていくための情報の集め方について広く知っていただきたいと思います。

プログラム

● 13:00 ————— 開場

● 14:00 ————— 開会

開会の挨拶

南 博信

(神戸大学医学部附属病院腫瘍・血液内科診療科長・教授)

● 14:10 ————— 講演1

「内視鏡外科手術～小さな傷での手術～」

黒田 大介

(神戸大学医学部附属病院食道胃腸外科診療科長・准教授)

● 14:50 ————— 講演2

「外来で受ける化学療法～より安全により快適に～」

向原 徹

(神戸大学医学部附属病院外来化学療法室長・腫瘍センター特命准教授)

● 15:30 ————— 休憩

● 15:50 ————— 講演3

「情報の集め方～がんとうまくつきあっていくために～」

藤原 由佳

(神戸大学医学部附属病院がん看護専門看護師・看護師長)

● 16:30 ————— パネルディスカッション

「がん治療Q&A」

◆パネリスト

和田 敦(神戸大学医学部附属病院がん専門薬剤師・主任)、

黒田 大介、向原 徹、藤原 由佳

◆司会

南 博信

● 17:00 ————— 閉会

[敬称略・順不同]

講演1 「内視鏡外科手術～小さな傷での手術～」



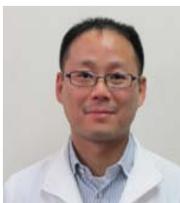
黒田 大介(くろだ・だいすけ)

神戸大学医学部附属病院食道胃腸外科診療科長・准教授

内視鏡外科手術は、1985年にドイツ人外科医Muheがはじめた腹腔鏡下に胆嚢を摘出することに成功して以来、その低侵襲性、優れた整容性から、瞬く間に全世界に広まり、比較的早い時期より、がん手術に対する導入も期待されてきました。現在、消化器外科領域では食道がん、胃がん、大腸がん、条件付で肝がんの内視鏡外科手術が保険適用されています。

20年前まではがんの手術と言えば、進行がんであっても早期がんであっても、一律に大きくお腹や胸を切って手術をしていましたが、内視鏡外科手術や内視鏡治療の進歩とともに、進行度に応じた治療が受けられるようになりました。内視鏡外科手術では、通常、4から6ヶ所に5mmないし12mmの小孔を開け、カメラと40cm前後の長い鉗子を使って手術を行います。腹壁や胸壁の破壊が小さいため、術後疼痛が少なく、腸管ぜん動の回復も早い長所があり、入院期間も短くなります。一方、2次元のテレビモニターを見てする手術のため、遠近感がとらえにくく、触診もできない、手術時間が長くなるなどの短所がありますが、長所が短所を上回り、患者さんの受ける恩恵が大きいため、がんに対する内視鏡外科手術は急速に普及しています。講演では実際の手術手技もご覧いただけます。

講演2 「外来で受ける化学療法～より安全により快適に～」



向原 徹(むこうはら・ととおる)

神戸大学医学部附属病院外来化学療法室長・腫瘍センター特命准教授

みなさんは、がんの化学療法(一般には抗がん剤と言われます)は全て入院でするものだと思ってらっしゃいませんか?確かに今日でも入院が必要な化学療法もあります。しかし、最近10年余りの間に、多くの化学療法が外来で行われるようになってきました。その背景には、「入院が一番安全」というかつての常識が見直され、安全を保ちつつ、患者さんの普段の生活を保ちながら治療を行うことに重きが置かれるようになったことがあります。また、点滴時間の短い化学療法、吐き気の少ない化学療法、内服薬による化学療法が増えたことや、吐き気止めなどの化学療法の副作用を抑える薬が発達したことも、外来化学療法が増える要因になっています。ただし、外来化学療法を安全に行うには、どうしても患者さんのご理解と、患者さんと医療者との密な連携が必要です。患者さんご自身が、お受けになっている化学療法のことをよくお知りになり、変調があれば病院に連絡すること、をして下さらなければ、非常に危険な状態に陥ってしまうことすらあるからです。つまり患者さんご自身も「医療チーム」の一員であることを御理解いただく必要があります。今回の講演では、外来で安全に、またできるだけ快適に化学療法を受けていただくために、是非知っておいていただきたい内容を中心にお話しします。

講演3 「情報の集め方～がんとうまくつきあっていくために～」



藤原 由佳(ふじわら・ゆか)

神戸大学医学部附属病院がん看護専門看護師・看護師長

ご自身が『がん』と診断された時、また、ご家族の誰かが『がん』と診断された時、「これからどうしたらいいんだろう…?」「どの治療を受けたいんだろう?」「どこで治療を受けたいんだろう?」「治療費はどれくらいかかるんだろう?」「何を食べたいんだろう?」と、迷ったり、とまどったり、不安になります。

こんな時、情報があなたの大きな“力”になります。正確な情報を集めて知識をたくわえることで、がんに対する不安を少なくしたり、療養生活の助けとなります。情報を上手く活用していきましょう。

現在、インターネット・テレビ・雑誌などから多くの情報を得ることができますが、情報量が多すぎて活用し困ったり、どの情報が正確なのかわからなかつたりすることがあります。今回の講演では、国立がんセンター「がん情報サービス」のホームページをご紹介しますと共に、正確な情報の探し方、活用の仕方などについてご説明し、がんと上手につき合っていく糸口を得ていただけたらと思います。